

# 「I.D.Oグループ展」

絵画、書、オブジェなど18点

4月の久我記念美術館は、2日から30日まで坂田賢次郎さん（佐賀県出身の彫刻家）らのグループによる「I.D.O（愛導）グループ展」を開催します。

I.D.Oとはグループの名称。出展作家は、坂田さんのほか5人（遠藤 繁美さん・小俣内 孝志さん・森永 元さん・國武 理己さん・白木 恵美子さん）です。作品は、絵画や書、オブジェ（アクリル・木）など18点。

メッセージが寄せられましたので紹介します。



### メッセージ

「コンピューターが社会を人を企業を制御している。地球のいたるところで同じ人間同士が血を流す。ある国では飢えと貧困で苦しむ人がいる。私たち人類と私たちの母なる地球は、本当に愛に抱かれ健全なのでしょうか！

今回は、坂田氏のアートは「愛を導く」、このテーマに賛同した作家のコラボレーション作品展です。アメリカで起こった「音楽で世界を平和にしよう」、「戦争はやめよう!」、こうした思いと願い（love&Peace）を継承し、創作ジャンルを超えた自由な発想の芸術バトルです。そして、私たちは、今回の作品展を通してみなさんたちに、「love&Peace」は、お元気ですか!と、問いかけ、願っていきいたいと思っています。」

3月の企画展  
岩下ゆたかの世界と仲間たち展  
3月11日(土)~26日(日)  
(月曜休館・入場無料)

## 歴史民俗資料館でひな飾り

町立歴史民俗資料館では、展示活動のひとつとして、ひな飾りをしています。

お内裏様とお姫様、三人官女、五人囃子などの7段飾りです。展示期限は4月16日(日)午後5時まで(月曜休館)、入館無料。みなさん多数ご観覧ください。

なお、同館(皿山公園)へは福祉センターから福祉バス(佐谷~上須恵線)がでています。便数は1日6便、土・日曜日、祝日運行。同センターの発車時刻は、9:30、10:35、11:40、13:35、14:40、15:45です。気軽にご利用ください。



仲島(須恵川)の桃

「モモ」は昨年も紹介しましたが、今回は実について紹介します。

モモは、中国では不老長寿の象徴とされていますが、栄養成分としては、さしたるものはないといわれています。しかし、注目すべき成分は、豊富に含まれている食物繊維のペクチンです。これは、便秘に良いとされる成分の一つです。

モモの実は冒頭で紹介のとおり

り、中国では縁起のよい果物として扱われています。確かに焼物や家具調度品の類に至るまで、モモが描かれているものや彫刻されているものも多く見えます。また、西遊記にも登場します。モモの実は形といい感触といい、なかなかいいものです。

須恵町には、乙植木で一部栽培されています。アイルランド出身で、須恵町に以前住んでいた英語教師助手、マテイーナ・ティレル先生は、モモが木になっているのを見たことがたとい、一緒に乙植木筒口池の近くまで見に行ったことを思い出します。

かつて、ピンク色のことを桃色と言っていました。これも最近あまり使われなくなりまりました。桃色とは実の色のことと思っていたら、花の色のことと辞書に書いてありました。

ピンクのイメージからすると、モモの実の色のような気がしてなりません。

森林木の譚

二十世紀の森づくりシリーズ 99



田んぼに生えた草を土の中に埋めていく道具。

手押し式で、イネの畝と畝の間を押していくと、この道具の足元に風車のようなものがついていて、これがクルクル回りながら、草を土の中に埋めていきます。土と一緒にかき混ぜていくといったほうが適切かも知れません。

中耕除草作業は、水稲を作るうえで重要な作業ですが、労働でした。この機械もその軽減のために作られたものです。現在では薬剤での除草が一般的ですが、近年、化学肥料や農薬の多量投入をやめ、家畜排せつ物のたい肥化による土づくりなど、環境にやさしく、持続可能な農業に関心が寄せられています。

田んぼに合鴨を入れたら、合鴨に草を食べてもらう除草方法を取り入れている人もいます。

写真の雁爪は、柄は木で、刃は鉄でできています。高さは87センチ、横幅が17・5センチ、長さは123センチです。

参考文献、農林水産技術会事務局「写真でたどる農機具の発達史」より

歴史民俗資料館

昔の生活民具シリーズ

機械雁爪(きかがんずめ)

57